

## 市民参加実施記録

案件	第七次伊達市総合計画策定に係る住民懇談会（東）
市民参加の方法	説明会
実施日時 及び場所等	・平成29年12月20日（水）18時30分～20時00分 ・東地区コミュニティセンター「みらい館」多目的ホール
所管部課名	企画財政部企画課
<p><b>【概要】</b>          &lt;出席者&gt;          市：企画財政部長、総務部長、教育部参与、企画課長、財政課長          事務局（企画調整係）          住民：34名</p> <p>1. 開会          2. 企画財政部長挨拶          3. 説明          4. 意見交換</p> <p><b>【住民】</b>          他の地区の住民懇談会で出た意見を紹介して欲しい。</p> <p><b>【事務局】</b>          大滝区では医療問題に関して、診療所が1ヵ所あるが、通常の診療がしっかり受けられる状態ではないという意見があった。          コミュニティに関して、お互いに助け合う共助のコミュニティの在り方を考えていかなければいけないという意見もあった。          去年の8月より災害が頻発しているが、災害の対応に向けた取組が不足しており、力を入れるべきだという意見もあった。          地域によって異なる課題もあり、きちんと解決すべきであるという意見が多かったと感じている。</p> <p><b>【住民】</b>          この地区だけの問題ではないと思うが、交通の問題がある。伊達市はコンパクトシティであり、中心街2km圏に行けばものが揃うと言われる。しかし離れた地区に住んでいると、運転ができなくなったときに移動に困り、最近は免許返納の問題もある。実際に返納した人の話を聞くと、返納してから不便になったと言う。伊達市は相乗りタクシーでそれを補っており、登録者も非常に多いと聞き、これは他の市町村にも自慢できることだと思う。ただ、60歳以上が対象であることが問題だ。最初の目的は高齢者への配慮であったと思うが、車の運転ができない人は高齢者に限らない。福祉のまちであるため障がいを持った人も多くおり、彼らは車の運転で不自由する。様々な理由で車の運転ができない人がいるため、どこでも住みやすいまちとして交通の便を良くして欲しい。          平成23年に相乗りタクシーができ、その後バージョンアップもしているのでさらにこの取組を進めて欲しい。例えば年齢制限を廃止すれば、伊達市内のどこに住んでいても便利になる。時間制限や曜日制限を廃止すると、生きがいづくりにもつながると思う。当初は必要最低限の足として考えられ、様々な制限を設けたのかもしれないが、夜間や日曜日にも利用で</p>	

できれば良いと思う。相乗りタクシーをぜひ発展させて欲しい。

道南バスに関して、「どこを走るのがわからない」、「行きたいバス停を通るバスなのかわからない」という声を聞く。伊達市には道南バスに働きかけて、わかりやすくしてもらおうか、伊達市で路線を紹介するかをして欲しい。

私は健康づくりに関する仕事をしており、保健センターや体育館で検診や体力測定、健康づくり等のイベントを行っている。参加の呼びかけをしているが、こういった施設は伊達市の中心部にありアクセスしづらく、「足がないから行けない」という声をよく聞く。以前は体育館がバスを所有していたが、老朽化により手放したと聞いた。伊達市で小さいバスを所有し、検診時等には遠方の住民を送迎するのはどうか。伊達市内の取組がより効果のあるものになる上、住民にとっては健康づくりや生きがいに役立つと思う。

#### 【事務局】

相乗りタクシーを運用して数年が経つが、年齢制限や時間帯制限の撤廃等改善点があると思う。今後この点を含め、タクシー業界との関係性も考慮し、考えたい。

伊達市は道南バスをはじめとする公共交通機関団体との協議会を設けており、今までも協議を重ねてきたが、今後も利用しやすい路線等について協議していきたい。

#### 【事務局】

市バスの意見は非常に参考になった。来年度は市バスを入れ替える計画をしている。平成32年に市バスが入る予定だったが、業者の都合で前倒しになった。古いバスがまだ使えるので、古いバスと新しいバスをうまく運用する方法を考えているところである。すべてが検診に使える訳ではなく、学校のイベントや課外授業、スクールバスに使いたい等の要望もあるため、他の動きと調整する。バスでの送迎によって検診率が上がるという効果が見られれば、伊達市としても望ましいので検討する。

#### 【住民】

交通機関について、道南バスと提携を結び運行本数を増やして欲しい。現在は1日に5、6本走っているが、多くの人が利用している。有珠地区・長和地区・黄金地区・稀府地区には商店街がなく、バスは買い物や病院に行く交通手段であるので、増便して欲しい。

第六次総合計画にあった地区別の政策が、第七次総合計画には含まれないと説明があったが、それは本当か。地区別の政策は第七次総合計画に重点項目として盛り込むのか。

#### 【事務局】

地区別の計画はつくらず、伊達市全体でのまちづくりの方向性を出す。

#### 【住民】

人口減少が進む中で、第13自治会にある公営住宅が6～7年前に解体され、自治会独自で市の協力を得て会館をつくった。会館をつくってから6年が経過したが、いまだにある空き地をどうするのか。末永町の公営住宅が解体された時は、民間人が土地を買ったと聞いた。第13自治会の公営住宅跡地について、土地の売買など何か構想はあるのか。

北舟岡駅は現在工事中であるが、いつ完成するのか。毎朝、約100名～130名が虻田・室蘭方面に通勤通学しており、子どもの保護者が乗用車で送迎している。人でにぎわっている一方で、車が多いため万が一事故が起きたら大変だと思うが、駅の完成はいつごろになるのか。

#### 【事務局】

見晴住宅跡地について、解体後2度ほど公売に出したが買い取り手がいなかった。現段階

では特に他の構想はない。

北舟岡駅は国からの交付金で整備しているが、ここ数年交付金が少なくなっており、交付金を十分受けられれば来年度中に完成できると思うが、予算がないと工事は進められないためもう少し延びると思う。

#### 【住民】

9月に大きな台風があり、各市町村は連合自治会を窓口として連絡網をつくるように要請していると聞いた。伊達市内には12の連合自治会があり、最近の会議で住民の連絡網をつくってはどうかという提案があった。黄金地区から大滝区までの12連合自治会に所属する、会長・副会長での連絡網が4月頃には完成すると思う。登別市で大停電があったこともあり、携帯電話での連絡網にする予定である。

#### 【事務局】

9月の台風時には川が氾濫する恐れがあり避難勧告を出したが、災害に関する一番の課題は情報をいかに市民に伝えるかである。昔から屋外の拡声器を利用して放送をしているが、近年は住宅の気密性の高さもあり、住宅の中に音が届かないということが現実になっている。そのため、現在は様々なものを使った情報伝達に取り組んでいる。屋外拡声器による放送や「wi-radio」による放送、インターネットを利用した情報の周知、また現在多くの方が所有している携帯電話を用いた情報伝達に取り組もうと考えている。

今年の10月3日に有珠山の噴火訓練を実施した時は、噴火訓練を行っている旨のエリアメールを各地域に居住する全員に向けて初めて送った。今後の訓練でもエリアメールの配信をしていき、実際の災害時に避難を促すものとして情報伝達の手法にしていきたいと考えている。

様々な情報伝達手段の1つに自治会を通じた連絡も考えている。災害発生時には連合自治会を通して自治会に連絡し、自治会から住民にできる限り連絡をしてもらいたい。その時は自治会・住民にご協力いただきたい。

#### 【住民】

「wi-radio」は、災害時に伊達市のリアル情報が得られると考えて良いのか。

#### 【事務局】

大規模災害が発生した場合は、「wi-radio」で災害情報を放送するという協定を放送局と結んでいる。「wi-radio」で災害に関する情報が放送されるようになっている。

#### 【住民】

今までは伊達市のホームページに災害情報が掲載されると認識していたが、現在は「wi-radio」からも情報が得られるということで理解した。

災害発生時に連絡網で一番頼りになるのは自治会なので、伊達市と連携して自治会の連絡網を強化すれば、自治会の加入率も上がると思う。

#### 【住民】

昨年のまちづくりワークショップをはじめ、シンポジウム、現在は「みらい会議」と審議会に参加している。昨年のまちづくりワークショップの参加からまちづくりに対する関心が非常に高くなり、このような機会を設けていただき伊達市に感謝している。

私が参加しているサークルで、開拓記念館で伊達市の歴史について学ぶイベントと、テレビ放送で歴史を知るイベントを開催した。各回とも20名程の参加があり、伊達市民に限らず長万部の方や移住を検討している道外の方の参加もあった。イベントは伊達市の歴史に関し

て解説を受けたり新しい発見をするなど、伊達市について知る良い機会となった。「だて学」は子ども対象の様だが、大人にも歴史を知る機会があれば良いと思う。先日「みらい会議」でも「だて学」の話題になった。「だて学検定」の様なものがあれば話題性もあるのではないかな。

持続可能なまちであるために、子どもの頃からまちづくりについて継続的な取組を行えば、第七次総合計画後（10年後以降）も継続してまちづくりに取組むことができ、「だて学」以外にもできることが見つかるのではないかな。伊達市で考えていることについて聞きたい。

コミュニティに関して、今年の春に企画課のサポートを受けてサークルを立ち上げたが、サポートに関するわかりやすい案内表示等があれば良いと思う。実際に利用してみてサポートを受けるのはハードルが高く感じた。サポートの利用がもっと簡単になれば、パラレルキャリア等の社会活動や地域貢献活動が活発になり、自治会を支える新しい仕組みに変化も生まれるのではないかなと思う。

#### 【事務局】

「だて学」は教育委員会で取組を進めているところだ。高校教員からは、伊達市の子どもは伊達市のことをあまり知らないと聞くが、伊達市内には様々な素晴らしいものがある。例えば文化においては、縄文文化・アイヌ文化・公家文化があり、それぞれに特色や支えてきた歴史がある。学校で実際に勉強しているが覚えていないという子どもも多いと思うので、伊達市に関する教育を体系化し、歴史的な横のつながり・縦のつながりを再構築し、伊達市について学ぶ基礎的な時間にしたいと考えている。

ふるさと創生は、教育から取り組まなくてはいけないと考えている。伊達市についてしっかりと勉強し好きになることで、伊達市に残る子ども、あるいは大学進学で市外に転居しても戻ってくる子どもが増えると良いと思う。学校では勉強したらテストをしなければいけないという考えが一般的だが、伊達市の歴史クイズ等子どもたちが伊達市を好きになれるような形式を考える。

大人を対象にする点については、大人は難しい人が多くいるので、厳しいかとは思っている。しかし伊達市のことを学んだ子どもが大人になれば、また子どもに教えるという良い循環が生まれると思う。これは第七次総合計画だけで終わらせず、ずっと続けていきたいと考えている。

#### 【事務局】

政策推進室は、サークルの設立支援を目的として設置している。窓口では支援に関する情報発信をしていきたい。

#### 【住民】

伊達市の子どもの遊びについて意見がある。2年前の2月に胆振管内の子供たちが洞爺観光ホテルに集まりかるた大会をしていたが、伊達市の子どもが一人もいなかった。私は長年子ども会の育成会会長をしていたが、今の伊達市の子どもは地域内に遊びの場がない。この実態について教育委員会は真剣に考えなければいけない。洞爺湖でのかるた大会のために、伊達市内の自治会で子どもが集まって練習するといった状況が見られない。このような地域内の子どもの遊びが伊達市には欠けているのではないかな。

#### 【事務局】

子どもの遊びの幅が狭くなっているのは間違いない。教育委員会としても当然心配しているが、世代によって子育ての考え方が異なっているため統一するのは難しい。

子ども会活動に関しては、どの地域でも衰退しているのが現状だと思う。教育委員会生涯

学習でもイベント等に子どもたちが集まるように、今年度はしっかり声掛けしている。かるた大会等の行事に参加する子どもたちも少しずつ増えている。ただ、教育委員会が音頭を取ることは可能だが、地域の高齢者や保護者に理解が得られるよう工夫しなくてはいけないと考えている。放課後の子ども教室やコミュニティスクール等様々な事業は浸透しつつあるので、その中で協力いただいている方たちから子どもたちをどのように育てていくかについて意見をいただいている。例えば、コミュニティスクールでは地域町内会員に役員をしてもらうことで意見をいただいている。

学校教員だけで子どもたちを育てることは難しい。現在はパソコンや英語をはじめ、スマートフォンの使い方など様々なことを教えなくてはいけない世の中になっている。学校で教えなくてはいけないのか、家庭で教えるべきなのか、地域の高齢者に教えてもらうのかなど、内容や対象等を分けて施策を進めていく。意見等があればぜひ聞きたい。

### 【住民】

子どもは遊びの名人と言われながら、今は遊びがなくなっている。その実態を考えなくてはいけない。以前は毎年室蘭市から青年の家子どもが遊びを教わるために泊まりに来ていた。しかし先生が子どもに遊んで良いと言っても、どう遊ぶのか尋ねる子どもがいたという。子どもは遊ばないと子どもらしくないし、遊びを通して善悪の判断ができるようになることもある。子どもの遊びに関して配慮をしなくてはいけないのではないか。今の子どもはかわいそうな気がしてならない。

子どもの遊びに関して胆振管内の他の市町村では取り組んでいるが、伊達市では取組がないため胆振管内の育児の集まりに参加できないという実態もある。胆振管内には胆振地域子ども会という連合体があり、胆振管内の伊達市以外の市町村には子ども会がある。

伊達市内でも大滝区では、子どもは地域に帰って遊ぶにも面倒を見る人がいないので、放課後は学校で遊び、学校型の子ども会が成立している。しかし、伊達市内の子どもに関しては自治会で対応しなければならない。伊達市にだけ地域の子どもの会がないという実態を行政は把握しているのか。伊達市は周辺地域を見て考えなければいけない。地域の子どものことだから地域に任せておけば良いという問題ではない。

### 【事務局】

伊達市だけに子ども会がないということは知らなかったが、例えば登別市内には1つしかなく、室蘭市内でも相当数が減少したということは把握している。

### 【住民】

青少年教育等にも目を向けて欲しい。子どもの遊び対策に関して1番手取り早い方法はPTAで取り組むことだ。遊びを知らずに育ってしまう子どもがかわいそうだ。

### 【住民】

東地区は特に高齢者が多く、高齢者が毎日元気に暮らすにはどうしたらよいかを考えている。今後は高齢者の認知症が大きな問題になると思う。

東地区では月2回2時間、高齢者の体力づくりに取り組んでいる。椅子に座ってできるものなど50種類程度の運動をし、物忘れをしないような取組や認知症予防講座も行っている。すでに他の地域でも同様の取組は行われているかもしれないが、このような取組ができる場所を設け指導してもらえると高齢者が元気になり、医療費の削減や地域の活性化につながる。見晴地区のこの取組は12月で10年を迎える。伊達市は高齢者の体力づくりに取り組んでいるが、これからは認知症予防にも取り組んでほしい。

### 【事務局】

健康福祉部の担当に伝える。

東地区の取組は非常に素晴らしいと思う。平均寿命が延びることは良いが、健康寿命を延ばすことが非常に大事だと思う。健康推進課では様々な取組をしており、今後も健康カラオケなど様々な事業を進めていきたい。東地区においては今の取組をこれからも続け、さらに活発にして欲しい。同様の取組が他の地区にも広がると、全市的に健康な高齢者が増えることになる。伊達市はそのような社会がつかれるように、第七次総合計画で取組んでいきたい。

### 【住民】

はまなす館と白鳥館では3年前から月に3回程度カラオケ健康会を開催している。昼食を食べ、音楽に合わせて体操する3時間ほどの会だ。一昨年から長和地区のふれあい館でも同様の取組をしている。東地区に関しては、社会福祉協議会が主催でみらい館を月に2回借りており、コミュニティセンターでは健康体操を行っている。

現在伊達市内には16カ所の飲食や遊びが可能なサロン教室がある。恐らく社会福祉協議会や高齢福祉課等から助成を受けている状態であり、個人予算はほとんどかからない。みらい館の健康会には平均で40人以上が参加しており、約50人の定員に対して約80%の参加率である。健明会は今年で10年目になるが、指導者がいれば参加率はもっと高くなると思う。

現在は様々な組織の弱体化が見られる。総合計画の中で今すぐに取り組んでほしいということではないが、人口減少と共に組織の弱体化は進むので、なんらかの対策をとってほしい。

### 【住民】

私は「みらい会議」に参加している。市のポスターを見て興味を持ち、自分自身の10年後を考えるためにも参加した。

私は5年前まで有珠中学校で教員をしていた。有珠中学校では10年前、まちづくりに関する取組を行い、当時の子どもたちは現在20代～30代になっている。当時は取組の内容を新聞に取り上げてもらったり、市長をはじめ伊達市に対して子どもたちが発信する場を設けてもらったり、非常に有意義な学習として成功した。成功した要因の1つに、「本物の人」に魅力を伝えてもらったことがある。まちづくりに関して生徒に教えることは教員だけでは限界があり、まちづくりに関わる様々な人にボランティアとして来てもらった。今の学校教員にはやらなければいけないことが多くあると思うが、様々な場面で専門家に関わっていただくことは大事なことだと思う。子ども会の活性化に関しても同様のことが言え、地域だけでなく専門家と協力することが大事だと思う。

今年、社会教育主催の市民講座に3つ参加し、どれも非常に有意義な内容であった。社会教育は、市民に様々な分野に関する学びの場を上手く提供していると感じた。しかし受講者に40代は少なく、ほとんどが60代70代の女性で、男性も少なかった。開催する地域の自治会にも関係すると思うが、世代で分ける行事は古いと思う。40代の働いている世代には、夜ならば参加したいという人がいると思う。あるいは子育て中で、子連れでは参加しにくい参加したいと思っている人など、参加したい人をこのような場に引き出す工夫があれば良いと思った。子ども会とつなげるのであれば、家族で参加できる休日開催のものも良いのではないか。自治会の活性化は重要だと思うので、異世代交流ができる自治会づくりなどがあれば、関わってみたい。

### 【事務局】

学校に専門家を呼んで学ぶことは教育的効果が高い。しかし学校規模による差もあり、少規模の学校であれば専門家1名で子どもへ万遍なく指導できるが、大規模学校であれば何度も専門家に来てもらうことは難しく、学校と協力して考えなければいけない。1人の先生が何種

類もの分野を教えるより、専門家がしっかり教えることの方が学べることは多くあると思う。

社会福祉協議会主催の講座に参加しているとのことだが、講座は様々な人に参加してもらえるよう内容などを工夫している。全ての講座を夜に開催するのは難しいが、できる限り多くの市民が参加できるようにしたい。

#### 【住民】

第六次総合計画内にある「将来像」の項目の1つに「自然の育み」がある。私は市外から伊達市に移住してきたが、伊達市の恵まれた自然を感じている。しかし第六次総合計画の分野別政策内に、自然を育むことに関する具体的な取組は示されていないと思う。

例えば有珠地区では、ポロノット森林公園の案内看板があるが、行ってみると何もなく、どこが入口なのかもわからない。アルトリキャンプ場も案内看板があるが、トイレや炊事場の維持がされていなく、老朽化している。「自然の育み」の「将来像」に関して、伊達市は地理的好条件にあるため、具体的な運動や方法を考えるべきではないか。

地域エリアを指定し、住民に自然を意識してもらう取組をしてはどうか。例えば長流川地区は野鳥の種類が多いと聞く。有珠地区のアルトリ岬周辺の海岸は浜辺の植物が多く、谷藤川にも多くの昆虫や植物が見られる。このような自然環境を守る取組や取組の方向性をどこかに位置づけるべきではないか。

谷藤川には、民間団体が採石場をつくるための私有地がある。東山には採石場があり、採石により山が一部分茶色になっている。善光寺の場所にパークゴルフ場をつくる計画は住民の反対にあい、まなびの里になった。自然環境保護に関して方向性がきちんと位置づけられていれば、こうした土地の利用や住民とのやり取りにも事前に対策がとれたのではないか。地域エリアを指定した環境保全に関する施策をつくってはどうか。

#### 【事務局】

自然環境の保護の観点では、具体的な施策を行ってこなかった。これまでは自然環境を生活環境と考え、生活環境を守るという視点で公害防止等の施策が中心だった。二酸化炭素をはじめ様々な問題があるが、自然環境を守るという点ではご提案いただいた地域ごとの取組も1つの方法として考えられる。自然環境の保全については、今後検討していかなければいけない課題の1つである。

#### 【住民】

12月13日に自治会で協議会を開き、総合計画について議論した。市街地区は、商店街の移転・閉店・撤退等の空洞化が進んでおり、いかに食い止めるかということを協議した。

第六次総合計画策定時に、東地区のまちづくりについて伊達市に意見を出した。第六次総合計画には「太陽の園」の景観や自然環境について、「伊達百景」に選定し推進するということが掲載されていた。伊達市の発展には東地区の発展が不可欠であると協議会は考え、第六次総合計画内の東地区に関する目標や提言について検討した。しかし「太陽の園」に関しては30年前から記載があるものの、具体的な取組内容がわからない上、意欲的に取組む構想もない様に見受けられる。本当に取組むのか、取り組まないのかを聞きたい。

「太陽の園」は景観も眺望もよい。協議会ではこの眺望を活かした一大観光開発に取り組むべきだという結論に達した。伊達市は何故取り組まないのか。富良野市は行政が企業誘致の受け皿として事業を起し、観光地として有名になったそうだ。現在は北海道の観光客人気が高くて高い。伊達市も「太陽の園」を買収し、富良野市のような取組をすれば雇用の場が増えると思う。第六次総合計画では具体的な事業や構想がわからないので、実際は何を目指しているのか聞きたい。

**【事務局】**

「太陽の園」に関して第六次総合計画に記載があるということだが、「『太陽の園』付近の景観等を利用し、『伊達市百景』と指定し開発しては」という話だと思う。この記載は、第六次総合計画の施策や目標ではなく、こうした提言があったということを紹介しているにすぎない。第六次総合計画で行っていくという旨の記載ではない。

**【住民】**

本日の配布資料では、総合計画は基本構想・基本計画・実施計画の三段階から成るとある。2ページ目の黄色で囲まれている事業は、実施計画に反映されているものなのか。

**【事務局】**

黄色で示している事業は、重点政策の4つのキーワード「食」「教育」「生きがい」「環境」のいずれかに該当することを示すものである。

**【住民】**

国道37号の両側60m程度（谷藤川付近）を商業地域に指定してはどうか。そのような構想はないのか。

**【事務局】**

そのような計画はない。その付近は都市計画区域の市街化調整区域であるため変更は難しい。

**【住民】**

何もやらずに難しいというのはどうかと思う。市民に夢を持たせる構想があってもいいのではないか。

**【事務局】**

先日建設部長から説明したとおり、都市計画区域は伊達市・登別市・室蘭市の圏域でつくっている。伊達市だけの問題ではなく、北海道の認可が必要になるので難しいと聞いている。

**【住民】**

そういう計画を進めて欲しい。  
見晴団地の宅地分譲も伊達市で行って欲しい。

**【事務局】**

冒頭に説明したとおり、人口減少により財政が苦しくなると予想される中で明るい未来にするために、住民の知恵を拝借する懇談会であることを理解していただきたい。

**【住民】**

地区別懇談会はこれで終わり、これから団体別懇談会を始めると思う。そこでも様々な意見が出るだろうし、人口減少で財政が苦しくなればできる事業とできない事業の判断も難しくなると思う。

第六次総合計画もあと1年ほどで終わる。今日は自然に関する問題が多く出て、自然に関する取組は第七次総合計画に盛り込まれるかもしれない。第六次総合計画の中には当然ながら実施された事業もある。例えば教育・生涯学習において、コミュニティスクールは去年から取組が始まり、今年も実施している。



**【住民】**

今後行政には、各自治体や団体で市民の声を聞き、文句を建設的な意見に変えていってほしい。

**【住民】**

伊達市は健康づくり推進事業に熱心に取り組んでいる。人材バンクを設置したり、健康づくりサポーターと呼ばれる支援者をリスト化したり、伊達市の健康づくりのために各分野で取り組んでいる。しかし、こうした取組の情報は市民になかなか伝わらず、もっと伝わるような取組があれば良いと思う。

**【住民】**

伊達高校から送ってもらっている姉妹都市の広報紙が見やすい。伊達市の広報紙も姉妹都市や他の自治体の広報紙を参考にして、見やすく改良して欲しい。

平成29年12月開催

第七次伊達市総合計画に係る

# 「住民懇談会」

伊達市企画財政部企画課企画調整係

## 重点政策の 4つのキーワード

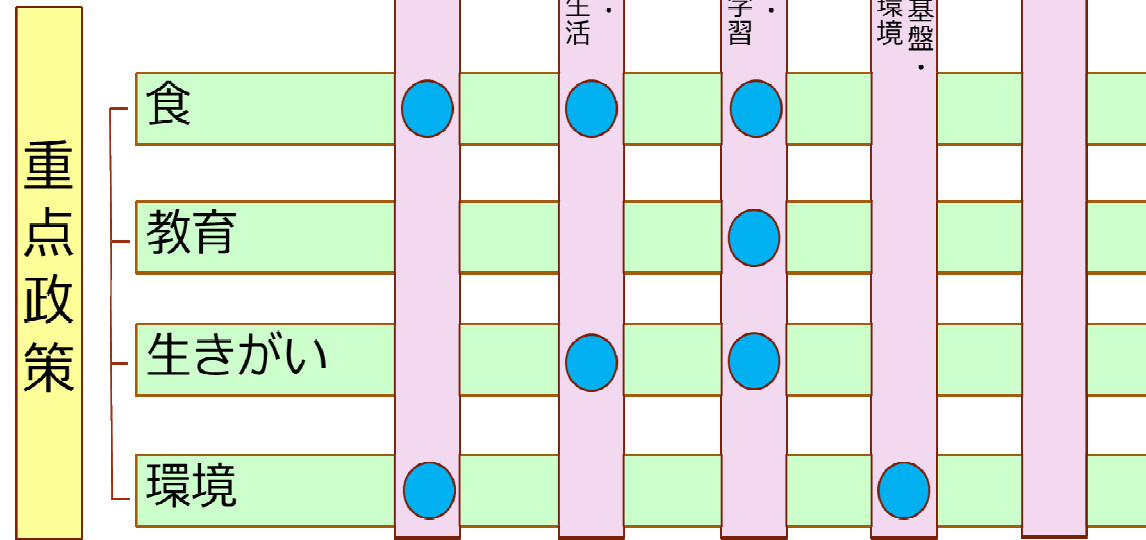
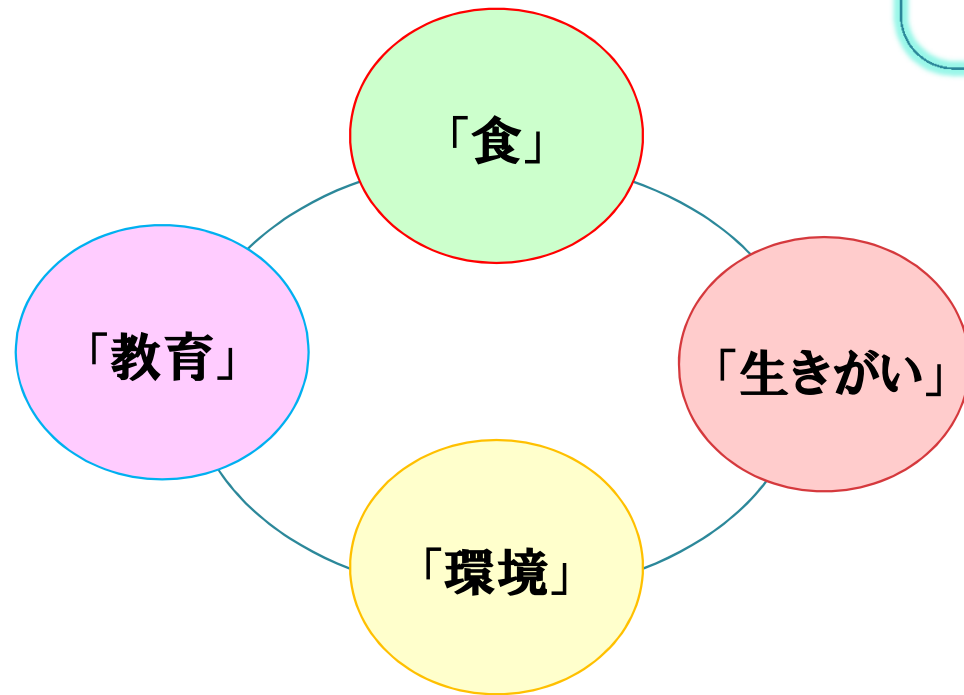
### 【将来像】

自然を育み

未来に向かって挑戦  
する

人にやさしいまち

## 分野別政策 (5つの領域)



「重点政策」は将来像の実現に向けて、限られた財政資源や人的資源を効率的・効果的に活用して**重点的・優先的に推進する**戦略的・横断的政策として掲げるものです。

「分野別政策」は全ての行政課題を分野別に分類して、まちづくりに取り組むための**政策全般を体系化**したものです。

# 分野別政策

## 1. 産業

- ◆新規就農者受入推進
- ◆亙理町イチゴ生産者支援
- ◆地域循環型ポイントカード運営補助
- ◆観光物産館整備 **食**
- ◆大滝区サービスステーション整備
- ◆木質ペレットプラント運営管理 **環境**
- ◆伊達野菜ブランド化の推進 **食**

## 2. 福祉・市民生活

- ◆公立・民間保育所整備
- ◆伊達駅前周辺整備
- ◆伊達赤十字病院医療確保支援補助
- ◆駅前団地へのシルバーハウジング整備 **生きがい**
- ◆看護師等修学資金貸付事業
- ◆新たなコミュニティ創出 **生きがい**

## 3. 教育・生涯学習

- ◆だて歴史の杜食育センター整備運営
- ◆だて歴史文化ミュージアム整備
- ◆コミュニティスクールの推進 **教育**
- ◆放課後子ども教室運営事業

## 4. 都市基盤・生活環境

- ◆空き家ストック有効活用推進
- ◆防災公園だて歴史の杜整備事業（体育館・プール等） **生きがい**
- ◆大滝区定住促進住宅整備

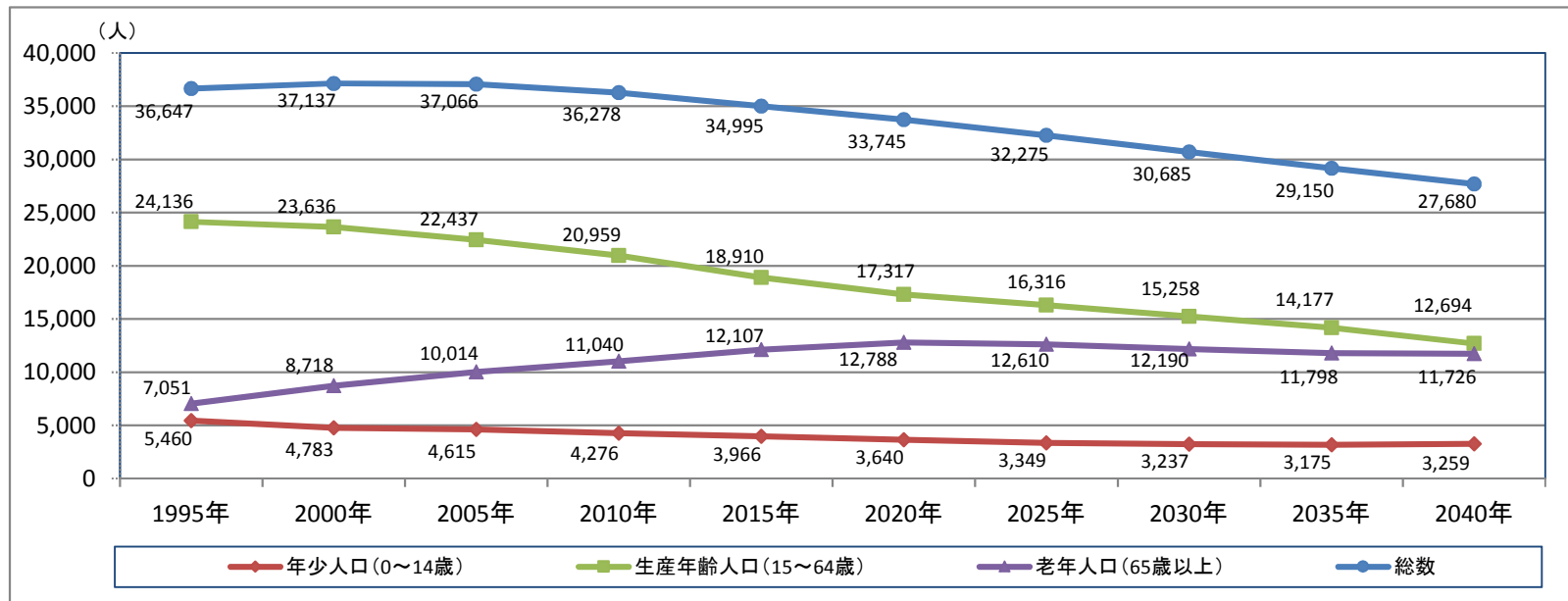
## 5. 自治

- ◆コミュニティFM放送局整備
- ◆3市3町による広域連携の推進

## ■人口の将来展望

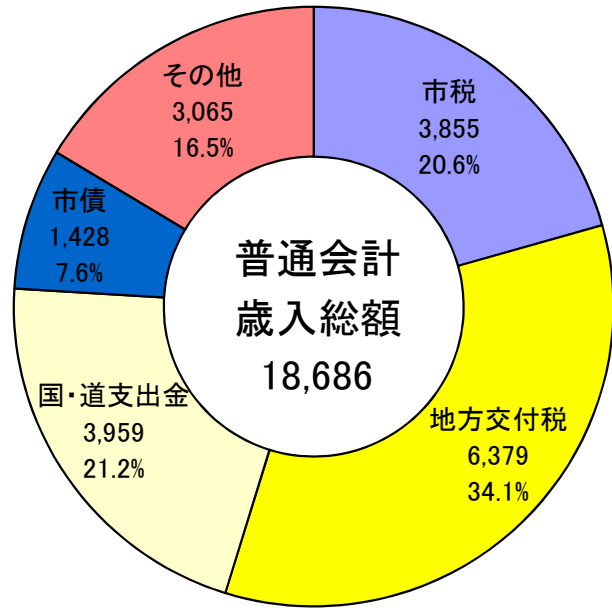
年代	実績値					推計値				
	1995年 H7	2000年 H12	2005年 H17	2010年 H22	2015年 H27	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年
総数	36,647	37,137	37,066	36,278	34,995	33,745	32,275	30,685	29,150	27,680
年少人口 (0～14歳)	5,460	4,783	4,615	4,276	3,966	3,640	3,349	3,237	3,175	3,259
生産年齢人口 (15～64歳)	24,136	23,636	22,437	20,959	18,910	17,317	16,316	15,258	14,177	12,694
老年人口 (65歳以上)	7,051	8,718	10,014	11,040	12,107	12,788	12,610	12,190	11,798	11,726
うち 75歳以上	2,859	3,799	4,648	5,647	6,280	7,007	7,922	8,216	7,856	7,384

※2015年9月策定の伊達市人口ビジョン「人口の将来展望」に、2015年国勢調査結果を反映し再推計したもの。単位は「人」

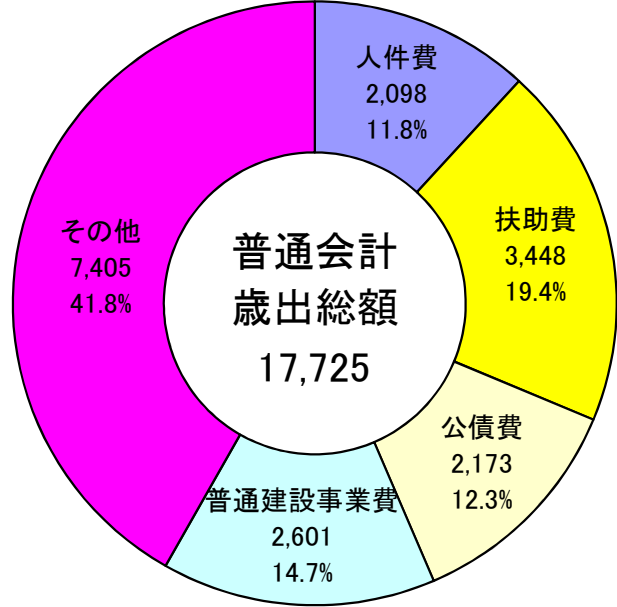


■ 財政見通し

平成28年度普通会計歳入決算 単位:百万円



平成28年度普通会計歳出決算 単位:百万円



地方税及び普通交付税の推計 単位:百万円

